

ワケ カタチには理由がある(170)

Shape follows Function
& Taste

～ウェストランド・ホワールウインド(Whirlwind HAS.22)



(←デハビランド・シーベノムと)



(所沢航空発祥
記念館の H-19
(撮影筆者)↓)

本機ホワールウインドは、ウェストランド社がシコルスキーから H-19 型のライセンスを取得して国内生産したヘリコプターです。英国海軍の採用は 1954 年で、ちょうど朝鮮戦争(1950 年～1953 年)が終了した後でした。本機は艦載機発着の際の事故発生時に使用される救難機として、それまで使われていた飛行艇(例えば、シーオッター飛行艇)から徐々に代替されるようになります。スエズ動乱(1956 年)時、英国海軍が出動した際には、シーベノム等と一緒に甲板上に並んでいたと思われます。なお、ホワールウインドの名は、同社が大戦中に開発した双発戦闘機と同じ名前です。同じ会社が他の機体に同じ名前を使用することは、あまり例がありませんが、ホワールウインド(Whirlwind)とは「旋風」のことで、回転翼機にとっても似合っている名前だと感じます。ベースとなったシコルスキー H-19 は陸上自衛隊機も使用し、日本でも所沢航空発祥記念館で見ることができます。



(どちらもウェストランド・ホワールウインド↓)

【模型について】

イタリアのイタレリ(Italeri)社の 1/72 キットである H-19 チカソー・ヘリコプターをロータークラフト(Roter Craft)社の改造パーツ/デカルを使って作成しています。H-19 はテールブームが斜め



下に下がり、安定翼もハの字状に垂れ下がったタイプも存在します。イタレリ社は両タイプを模型化していますから、ベースになる同社キットを探すときには注意が必要です。ちなみに、陸上自衛隊機は、テールブームが水平で安定尾翼がハの字の混在型でした。(中川裕幸 2025 年 6 月)